

## 「土づくりとエコ農業」の誌面刷新と原稿の公募のお願い！

### 1. 誌面をより現場重視に

隔月誌「土づくりとエコ農業」については、平成 28 年度から主な読者である土壤医資格登録者など現地で対応している方が一層、関心を有する誌面に変えていくこととしております。このため、現場での対応事例など現地で役立つ記事を豊富に掲載していきます。

平成 28 年度からの「土づくりとエコ農業」の誌面構成は以下のとおりで、アンダーラインの項目が新たな内容のものです。

#### 「土づくりとエコ農業」の新たな誌面構成

##### (1) 特集

##### ◎優れた農家の土づくり(新)

(内容: 収量、品質の優れた農家の土づくり、大規模経営でも収量、品質の高い農家の土づくり、土壤病害、センチュウ害が抑止できている農家の土づくり)

最近関心の高いテーマの調査研究成果、優良事例

土づくり推進フォーラムの報告から

##### (2)土壤診断による施肥改善、生育改善の実践事例(新)

##### (3)土づくりの疑問？解説コーナー(新)

##### (4)新製品ニュース ー土づくり資材、機器等ー(新)

##### (5)土壤医の広場 ー土壤医関係情報、試験問題解説ー

##### (6)トピックス

### 2. 原稿の募集内容

土壤医資格登録者などの皆様に原稿募集をお願いしたいのは、以下の項目についてです。

#### ①特集 優れた農家の土づくり(新)

( 収量、品質の優れた農家の土づくり、大規模経営でも収量、品質の高い農家の土づくり、土壤病害、センチュウ害が抑止できている農家の土づくりなど)

#### ②土壤診断による施肥改善、生育改善の実践事例(新)

(土壤の化学性、物理性、生物性の診断により、作物の生育改善に結び付いたり、化学性診断により施肥改善に結びついた事例)

原稿は、土壤医資格登録者などが先進農家を調査や取材してまとめた事例や土壤診断などの成果事例を記事にすることを考えております。

また、(4) 新製品ニュース ー土づくり資材、機器等 ーについては従来の製品と比較して斬新性のあるものがございましたら情報を当協会(広報部)にお寄せ下さい。

(原稿内容の例)

◎優れた農家の土づくり(収量、品質の優れた農家の土づくりの例)

「大規模畑作農家 S 氏(北海道)の小麦作の事例」

- ・小麦の最近 10 ケ年の平均収量が 610kg/10a (H26 年産小麦北海道平均 447 kg/10a) で全て 1 等 A クラスと高品質生産達成  
(高品質、高収量が達成できた要因)
- ・土壌分析結果に基づき施肥体系を見直し、基肥中心から追肥中心に移行した。
- ・小麦播種期日ごとの播徹量を徹底して守るとともに、生育期間中の茎数管理を徹底した。なお、コスト的には播種量が大幅に削減できた。
- ・大豆間作導入による 輪作体系の確保等により、小麦の安定的栽培の確立ができた。

◎土壌診断による施肥改善・生育改善の実践事例の例

「ホウレンソウ産地でのマンガン欠乏症改善の事例」

- ・多くの畑でホウレンソウの葉に黄緑色の斑が発生し、消費者から不安がられた。  
(異常葉が発生した要因)
- ・発生圃場と発生していない圃場を土壌分析した結果、葉に黄緑色の斑が発生した圃場の土壌はアルカリ化していた。アルカリ化でマンガン欠乏が起こしやすいことからマンガンを測定したら欠乏域にあった。
- ・土壌がアルカリ化したのは長年鶏糞を連用してきたことが原因であると考えられたことから、こうした圃場では他の堆肥を施用することを地域で申し合わせた。
- ・応急的には硫酸マンガンを施用することによって 1~2 年で問題が解消した。

3.原稿の応募要領

原稿の応募ができる方は「優れた農家の土づくり」か「土壌診断による施肥改善・生育改善の実践事例」かの区別に、テーマ及び内容の要旨を記したものを当協会(広報部)お寄せ下さい。その後、原稿をお願いする場合は、原稿締め切り、執筆要領等をお送りします。

原稿は随時受け付けております。

なお、土壌医資格登録者が執筆し、掲載された場合は CPD 単位 5 ポイントが付加されます。

問合せ・連絡先 : (一財) 日本土壌協会 調査広報部

E-mail : book (アットマーク) japan-soil.net

Tel 03-3292-7282 Fax 03-3219-1646